

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 7 区分
 【発行日】平成 19 年 7 月 12 日 (2007.7.12)

【公開番号】特開 2005-335919 (P2005-335919A)
 【公開日】平成 17 年 12 月 8 日 (2005.12.8)
 【年通号数】公開・登録公報 2005-048
 【出願番号】特願 2004-159661 (P2004-159661)
 【国際特許分類】

B 6 5 H 9/14 (2006.01)

B 4 1 J 13/00 (2006.01)

B 6 5 H 15/00 (2006.01)

【F I】

B 6 5 H 9/14

B 4 1 J 13/00

B 6 5 H 15/00 E

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 5 月 25 日 (2007.5.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

記録ヘッドにより記録シートに記録を行う記録装置において、
 記録シートの搬送方向において記録ヘッドの上流側で記録シートを搬送する搬送ローラと、

前記搬送ローラに従動して回転するピンチローラと、

記録シートの表裏を反転する反転部と、を有し、

第 1 の面に記録を行うときは記録シートの先端を前記搬送ローラと前記ピンチローラとのニップ部に突き当てて斜行矯正を行い、第 2 の面に記録を行うときは記録シートの先端を前記ニップ部に突き当てる斜行矯正を行わないことを特徴とする記録装置。

【請求項 2】

前記反転部は記録シートを表裏反転させる U ターン搬送部を有し、前記第 2 の面に記録を行うときに前記搬送ローラが前記第 1 の面に接触することを特徴とする請求項 1 に記載の記録装置。

【請求項 3】

前記第 2 の面に記録するために記録シートを前記 U ターン搬送部で搬送するときに、該 U ターン搬送部のローラが前記第 1 の面に接触することを特徴とする請求項 2 に記載の記録装置。

【請求項 4】

前記第 1 の面がコート面を有することを特徴とする請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 項に記載の記録装置。

【請求項 5】

記録ヘッドにより記録シートに記録を行う記録装置において、
 記録シートの搬送方向において記録ヘッドの上流側で記録シートを搬送する搬送ローラと、

前記搬送ローラに従動して回転するピンチローラと、を有し、

第１の面に記録を行うときは記録シートの先端を前記搬送ローラと前記ピンチローラとのニップ部に突き当てて斜行矯正を行い、第２の面に記録を行うときは記録シートの種類に応じて記録シートの先端を前記ニップ部に突き当てる斜行矯正の有無を選択することを特徴とする記録装置。

【請求項６】

前記第１の面に記録を行うときに、停止している前記搬送ローラと前記ピンチローラとのニップ部に上流側の搬送手段によって記録シートの先端を押し付けて記録シートを湾曲させて行う斜行矯正と、前記搬送手段によって記録シートの先端部を所定量搬送した後に記録シートの先端が前記搬送ローラと前記ピンチローラとのニップ部に押し付けられる状態になるまで逆方向に搬送して行う斜行矯正とを、記録シートの種類に応じて選択的に行うことを特徴とする請求項５に記載の記録装置。

【請求項７】

記録シートの種類に関する情報をホストコンピュータから取得することを特徴とする請求項５又は６に記載の記録装置。

【請求項８】

記録シートの種類に関する情報を入力する入力手段を有することを特徴とする請求項５又は６に記載の記録装置。

【請求項９】

記録シートの種類に関する情報を、記録が行われる前の記録シートから読み取る紙種センサを有することを特徴とする請求項５又は６に記載の記録装置。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００１

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００１】

本発明は、記録ヘッドにより記録シートに記録を行う記録装置に関する。

【手続補正３】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００７

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００７】

本発明は、記録ヘッドにより記録シートに記録を行う記録装置において、記録シートの搬送方向において記録ヘッドの上流側で記録シートを搬送する搬送ローラと、前記搬送ローラに従動して回転するピンチローラと、記録シートの表裏を反転する反転部と、を有し、第１の面に記録を行うときは記録シートの先端を前記搬送ローラと前記ピンチローラとのニップ部に突き当てて斜行矯正を行い、第２の面に記録を行うときは記録シートの先端を前記ニップ部に突き当てる斜行矯正を行わないことを特徴とする。

また、本発明は、記録ヘッドにより記録シートに記録を行う記録装置において、記録シートの搬送方向において記録ヘッドの上流側で記録シートを搬送する搬送ローラと、前記搬送ローラに従動して回転するピンチローラと、を有し、第１の面に記録を行うときは記録シートの先端を前記搬送ローラと前記ピンチローラとのニップ部に突き当てて斜行矯正を行い、第２の面に記録を行うときは記録シートの種類に応じて記録シートの先端を前記ニップ部に突き当てる斜行矯正の有無を選択することを特徴とする。

【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００８

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 8 】

本発明によれば、記録シートの搬送精度を維持しつつ、記録シートに両面記録する際のローラ跡の発生を無くすることができる記録装置が提供される。

【 手 続 補 正 5 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 3 8

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 3 8 】

第 1 の面に記録された記録シートは上記 U ターン搬送路に沿って搬送される間に第 2 の面（第 1 の面の反対側の面）が図示上面になるように表裏を反転される。表裏反転された記録シートは、第 1 の中間ローラ 8 6 及び第 2 の中間ローラ 8 7 の駆動によって、再度、搬送ローラ 3 6 及びピンチローラ 3 7 のニップ部へ送り込まれる。そして、搬送ローラ 3 6 の駆動により記録シートが記録領域を通して搬送される間に、記録手段 7 によって該記録シートの第 2 の面に対する記録が行われる。

【 手 続 補 正 6 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 4 2

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 4 2 】

しかし、コート面など斜行矯正を行うことでゴム跡（ローラ跡）が付くような表面を有する記録シートの場合、第 1 の面に記録した後、その反対側の第 2 の面に画像記録を行う際に第 1 の面に記録するときと同様の記録動作を行うと、記録された第 1 の面にローラ跡が残ってしまうという不都合がある。その理由は、第 1 の面に記録された記録シートが第 2 の面に記録するために U ターン搬送部 8 内で搬送されているとき、画像記録された第 1 の面が U ターン（表裏反転）用の中間ローラ 8 6、8 7 に接触しており、搬送ローラ 3 6 のニップ部に突き当てて斜行矯正を行っているときに中間ローラ 8 6、8 7 が画像記録されて膨潤している第 1 の面を滑りながら回転して擦ることにある。